

切手でみる土木史：国際比較

正会員 秋田県 加賀谷長之

正会員 秋田大学 清水浩志郎

正会員 秋田大学 木村 一裕

Public Works on Postage Stamps : International Comparison

By Nagayuki Kagaya

Koshiro Shimizu

Kazuhiro Kimra

概 要

本報告は、一昨年、昨年と2年間にわたって報告した「切手でみる土木史」日本編および世界編の続編といえるもので、これまでに紹介した切手の国際比較を行い、今後日本で発行される土木の切手のあり方について提言を行うことを目的としている。そのために、土木の切手を対象に意識調査を実施することにより、土木事業が切手を通して国民にどのように理解されているかを分析したものである。

〔キーワード：切手、土木事業、国際比較〕

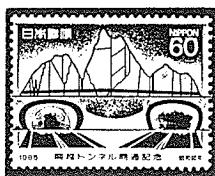
1. はじめに

切手は、単に郵便料金を前納するという証票としての役割だけではなく、国家の発行という権威に裏付けられた金券としての価値を持っている。さらに、配布という手段を必要とせず、それ自身が地球をかけめぐるという特殊性も有している。このことから切手は、極めて有効な宣伝媒体となりうるために、世界各国がこれを活用している。

土木事業に関連した切手（以下「土木の切手」という）についても、完成記念や古代事業を紹介しているものなどが発行されており、筆者らはそれらを項目別に整理して年表にまとめ、一昨年は日本編、昨年は世界編を報告した。日本編、世界編を通して明らかなのは、切手に描かれている対象および図案は、土木史の一面を語るのに有効であり、また土木事業の周知に効果を発揮しているということであった。しかしながら、わが国の土木の切手の一部には、対象はもとより図案に関しても検討の余地が残されているものも見られるように思われる。そこで、各国の土木の切手と比較することにより、対象や図案など、よい点を今後発行されるわが国の土木の切手へ採用することができるならば、切手を通して土木事業がさらに広く国民に理解される一助

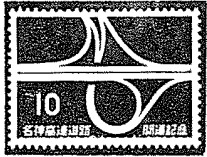
となり、また土木史を語る材料も豊富になるものと考えられる。

もちろん、各国は世界中に通用する普遍性のある切手を発行するなかで、自国の独自の文化や習慣などを反映した対象や図案の切手を発行するよう心がけている。したがって、わが国の土木の切手と外国のそれとを比較するうえでも、宗教、文化、習慣、価値観などの相違点を考慮する必要がある。そこで本報告では、こうした問題認識に立ち、土木の切手の国際比較を行うことにより、日本と外国で発行された切手の相違を把握することを目的としている。さらに、＜「土木の切手」に関する意識調査＞を実施し、これらの相違点を越えて、切手の持つよさがどのような要因によって決定されているかを探り、今後発行される土木史をテーマにした切手のあり方について提言を行うものである。



関越トンネル開通記念（切手番号㉙）

表1 切手でみる土木史年表：国際比較

年 代	土 木 事 業 (日 本)
〔古 代〕 607年 推古15 法隆寺建立 (B-1 普通・1938/ B-1 国宝シリーズ・1967) 685～710頃 高松塚古墳 (B-2 保存基金募金・1973(3) 図案・壁画) 天武14～和銅 3頃 710 和銅 3 奈良遷都 (A-2 遷都1250年記念・1960 / B-1 国土緑化運動・1981 図案・奈良の風景)	
〔中 世〕 1457 康正 3 江戸城築城 (A-2 東京開都 500年記念・1956 / B-1 明治 100年記念・1968 図案・江戸城/B-1大婚50年記念・1974 図案・二重橋(2))	
〔近 世〕 1603 慶長 8 日本橋完成 (B-2 国際文通週間・1962 広重画「日本橋」㉔) 1609 " 14 名古屋開府 (A-2 開府 350年記念・1959) 1869 明治 2 観音崎に最初の洋式灯台完成・点灯 (A-2 灯台 100年記念・1968) 1870 " 3 三代広重画「横浜波止場より海岸通異人館の真図」に横浜波止場の図が描かれる (B-1 税関 100周年記念・1972) 1881 " 14 山梨県がわが国最初の県営砂防工事を開始 (A-2 砂防 100年記念・1981)	 26  27
〔現 代〕 1927 昭和 2 地下鉄 (浅草・上野間) 開業 (A-2 50年記念) 1956 " 31 佐久間ダム完成 (A-1 竣工記念) 1958 " 33 関門トンネル (国道) 完成 (A-1 開通記念) 1959 " 34 児島湾締切堤防完成 (A-1 竣工記念) 1961 " 36 愛知用水完成 (A-1 通水記念) 1962 " 37 若戸大橋完成 (A-1 開通記念) 1963 " 38 名神高速道路 (尼崎・栗東間) 開通 (A-1 開通記念 ㉗) 1964 " 39 東海道新幹線開業 (A-1 開通記念) " 太平洋横断ケーブル開通 (A-1 開通記念 ㉘) 1978 " 53 新東京国際空港開港 (A-1 開港記念) 1985 " 60 関越トンネル (関越自動車道) 完成 (A-1 開通記念・10月 ㉙)	 28

年 代	土 木 事 業 (世 界)
[古 代]	
B.C.3500頃 ～B.C.2400頃	トロヤ第一市建設・小アジア（トルコ A-2 トロヤ発掘記念・1956 図・遺跡の大劇場）
B.C.2500頃 ～B.C.1500頃	モヘンジョダロ建設・インド（バキスタン A-2 ユネスコ25年記念及びモヘンジョダロ遺跡救済・1971 図・遺跡の大浴場）
B.C.2440頃	ギザの三大ピラミッド完成・エジプト（ハンガリー A-2 世界七不思議記念・1980）
B.C. 312 ～A.D. 2世紀	水道橋建設・ローマ（フランス B-1 普通・1929 図・特に有名な水道橋の1つでフランスのニームにある「ボン・デュ・ガール」）
B.C. 214	万里の長城建設始まる・中国（A-2 万里の長城宣伝・1979）
[中 世]	
12世紀	ミュンヘン市開都・ドイツ（西ドイツ A-2 800年記念・1958 図・1158年の木版画に描かれた市街）
15～16世紀	バチカン復興ほぼ現在の姿となる・イタリア（バチカン B-1 速達・1933 図・市国の全景の鳥かん図）
[近 世]	
1790	ワシントン建設着手・アメリカ（A-2 首都ワシントン150年記念・1950 図・最高裁判所の建物）
1825	世界最初の鉄道開通・イギリス（A-2 150年記念・1975 図・最初の機関車ロコモーション号）
1852	アメリカ土木学会創立（A-2 100年記念・1950 図・ジョージワシントン橋と1852年当時の屋根付き橋）
1858	大西洋海底電線開通・アメリカ（A-2 100年記念・1958 図・地球、ネプチューン、人魚）
1867	ノーベルがダイナマイトの特許を得る・スエーデン（A-3 ノーベル没50年記念・1946 図・ノーベルの肖像）
[現 代]	
1914	パナマ運河開通・アメリカ（キャナル・ゾーン A-2 25年記念・1939 図・運河開通後の風景）
1920年代	最大の干拓工事着工・オランダ（A-2 干拓事業推進宣伝・1959 図・干拓工事）
1932	シドニーのハーバー橋完成・オーストラリア（A-1 完成記念）
1933	ライヒスアウトバーン（高速道路）建設着工・ドイツ（B-1 寄付金つき・1936 図・アウトバーン）
1935	ボールダーダム完成・アメリカ（A-1 完成記念）
1960	新首都ブラジリア建設着工・ブラジル（A-1 着工記念 図・三権広場の図）
〃	アスワンハイダム建設着工・エジプト（A-2 25年記念・1985 図・完成後のダムの鳥かん図）
1961	オルリー空港開港・フランス（A-1 開港記念）
1966	グレートリバーロード宣伝・アメリカ（A-2 同道路宣伝 図・中央アメリカの地図、ニューオーリンズとミシシッピ川の上流とを結ぶ5600マイルの同道路の図）
1975	長距離地下鉄開通・フランス（A-1 開通記念 図・地下鉄の横断面図と電車）
1984	都市再開発・イギリス（A-2 王立英国建築家協会設立150年記念・1984 図・各都市の再開発風景 リバプール ブリストル）

2. 土木の切手の定義と分類

2-1 定義

土木の切手とは、広義には発行目的や描かれている図案が土木に関する切手の総てを指すが、この定義では、あまりにも広範囲で、また、対象の焦点もぼやける恐れがある。ここでは、発行の目的が土木事業に関するもの、および、図案に土木事業が描かれ、それが比較的容易に見分けられるものを「土木の切手」と定義した。

2-2 分類

土木の切手を次のように分類した。

A 発行の目的が「土木」に関する切手

A-1 : 土木事業の完成、関係会議等を記念する切手

A-2 : 土木事業の完成周年記念、土木に因む遺跡の発掘および救済、土木事業の宣伝等の切手

A-3 : 土木にちなむ人物の切手

B 「土木」に関する図案が描かれている切手 (発行の目的はA以外)

B-1 : 土木が図案の主題になっている切手

B-2 : 土木が従的な図案として描かれている切手

なお、B-2は種類も多く、また図案確認の困難なものも多いため、本報告では分析の対象から除いた。

2-3 項目

本報告で取り上げた土木の切手の項目は以下の17項目である。

道路、橋梁、交通通信施設、ダム、発電所、鉄道（地下鉄を含む）、トンネル（ただし道路または鉄道に含まれる）、港湾、空港、運河、国土開発、都市計画、土地造成、公園（自然公園を除く）、城、特殊な事業、人物。

表1の年表より、日本と外国の切手を比較して、以下のことがいえる。

1) 日本の土木事業で切手に登場する最初のものは、607年の法隆寺であるが、外国では、旧石器時代後期あるいはB.C.3500年頃と極めて古い土木事業である。

2) 日本には運河の切手はない。しかし、外国をみると、スエズ、パナマなどの運河が切手の対象となっている。

3) 日本は、海底ケーブル完成の切手をよく発行しているが、外国ではあまり例がみられない。

4) 日本には工事中の土木の切手がないが、外国ではいくつか発行されている。

5) 世界編で分析の対象の中心としたアメリカ、イギリス、フランス、西ドイツと比較して、日本では1945年以降、土木事業の完成切手を比較的多く発行している。

6) 日本には、橋梁などを対象とした場合、大きく描いた版画（主として江戸時代のもの）を写した切手が多いが、外国では風景画の中に描かれた土木の切手がみられる。

3. 土木の切手に関する意識調査

3-1 調査の概要

以上、日本編、世界編およびこれまでの国際比較を通して日本の土木の切手には古代土木事業などの図案が少なく、また工事中の切手も全くないことがわかった。これらのことは、国民に切手を通した土木事業のPR効果、および土木技術の評価の場が諸外国と比較して少なくなっているものと考えられる。そのために、今後、土木事業を理解しやすいような切手を発行するためには、現在まで発行された切手の対象となった事業に対する好感度や、どのような図案が土木事業の理解などの評価に影響を及ぼしているかといった意識を把握する必要があると思われる。また、このような意識構造面から分析した研究例は、切手の分野においてはほとんどみられない。そこで、本報告では、＜「土木の切手」に関する意識調査＞を実施し、国民が持っている土木の切手に対する意識を明らかにしようとした。

調査票は、2-3で分類した17項目のうち、運河、都市計画、土地造成、公園、城、特殊な事業および人物を除き、新たに地下鉄を加えた11項目の対象に関し、日本と外国の2通りの計22枚と、外国の工事中の切手3枚を合わせた合計25枚をひと組とし作成した（表2参照）。調査方法は、対象切手25枚の実物を被験者にみせる形式をとった。また調査対象者には、土木工学科の男子学生、他学科の男子学生、



①



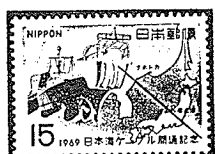
②



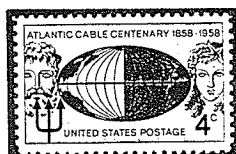
③



④



⑤



⑥



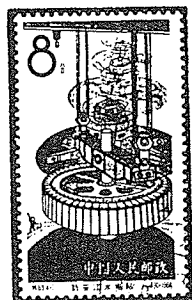
⑦



⑧



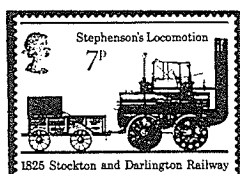
⑨



⑩



⑪



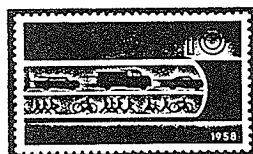
⑫



⑭



⑬



⑮



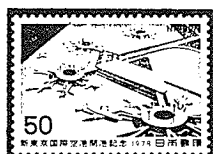
⑯



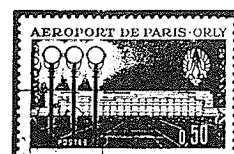
⑰



⑱



⑲



⑳



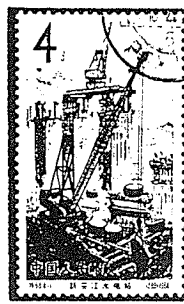
㉑



㉒



㉓



㉔



㉕

表2 調査に使用した日本と外国の切手

項目	日本	外国
道路	東名高速道路完成記念 ①	ソウル・釜山間高速道路竣工記念(韓国) ②
橋梁	大鳴門橋開通記念 ③	ハーバー橋(シドニー)完成記念(オーストラリア) ④
通信	日本海ケーブル完成記念 ⑤	大西洋海底電線開通100年記念(アメリカ) ⑥
ダム	小河内ダム竣工記念 ⑦	ボールダーダム完成記念(アメリカ) ⑧
発電所	普通切手 ⑨	新安江発電所完成記念(中国) ⑩
鉄道	鉄道100年記念 ⑪	世界初の鉄道開通150年記念(イギリス) ⑫
地下鉄	地下鉄50年記念 ⑬	ブタペスト地下鉄東西線開通記念(ハンガリー) ⑭
トンネル	関門トンネル開通記念 ⑮	シンプロントネル開通50年記念(イタリア) ⑯
港湾	第5回国際港湾協会総会記念 ⑰	国際港湾会議記念(オーストラリア) ⑱
空港	新東京国際空港開港記念 ⑲	オルリー空港開港記念(フランス) ⑳
国土開発	八郎潟干陸式記念 ㉑	干拓事業推進宣伝切手(オランダ) ㉒

注：①は切手番号

そして女子学生の3つの属性に分けた。なお、被験者数はそれぞれ20名、7名、16名の計43名であった。

3-2 対象に関する分析

切手の評価には、一般に、それに描かれている対象と図案の2面が考えられる。そこで、最初に切手の対象としての土木事業を被験者がどのように評価しているかを分析する。図1は切手の対象別第一印象を示したものである。第一印象で最も好感が持たれている対象は鉄道で、「とても好感が持てる」「やや好感が持てる」を含めた好感が持てると回答した人は70%以上となっている。次いで地下鉄、橋梁となっており、これらの土木事業を対象とした切手は好感が持たれていることがわかる。一方、あまり好感が持たれていない対象は発電所および国土開発などとなっている。次に、図2は切手の対象別にみた土木事業に対する理解度を示したものである。ここでよく理解されたものとして、橋梁、工事中、道路などがあり、テレビや新聞を媒体として比較的なじみのあるものが高い割合をとっている。これらのことから、切手の対象としての土木事業は、鉄道、橋梁、工事中といったものを国民は理解しやすい事業として捉えているといえる。

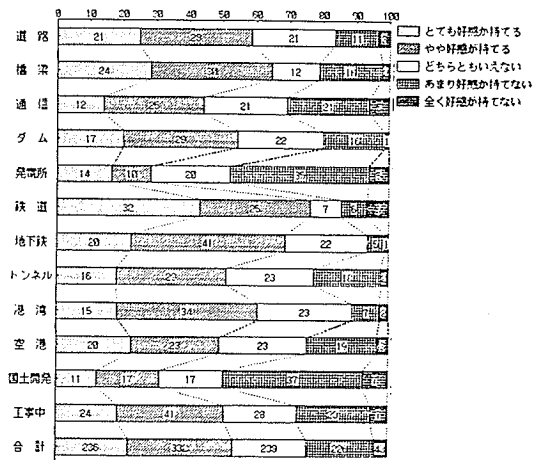


図1 切手の対象別第一印象

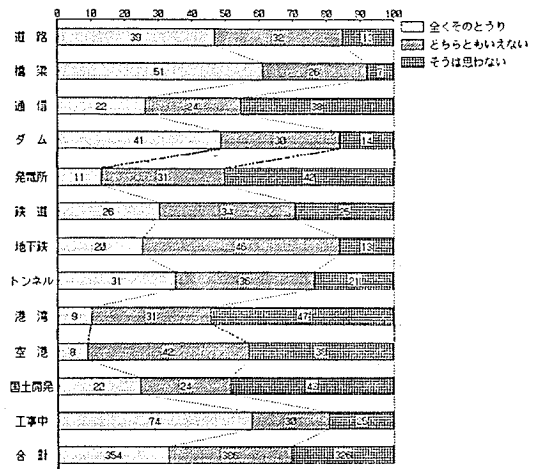


図2 切手の対象別土木事業の理解度

3-3 図案に関する分析

前節では、切手に描かれている対象について分析した。本節では、切手から受ける印象がどのような要因に大きく関わっているかといった図案についての分析を行う。分析方法として、数量化理論Ⅱ類を用いた。数量化理論Ⅱ類は、外的基準および変量とともに、本来数値で表されることができない質的なデータの場合に適用され、その外的基準に変量がどのように影響を与えているか、あるいは外的基準と

変量相互の間にどのような因果関係がみられるかを分析するための手法である。本報告では外的基準に「切手の第一印象」「土木事業に対する理解度」の2項目をとり、各変量に対しては「全くそのとおり」「どちらともいえない」「そうは思わない」の3つを説明変数にとった。表3および表4は、道路の切手について、それぞれの外的基準に対しおのおのの変量の偏相関係数を示したものである。表3より、第一印象の好感度を説明するのに大きく関わっている変量は「色彩が美しい」「図柄の適切さ」「土木工学の知識の有無」などとなっている。また、表4の土木事業の理解度に対しては、「図柄の適切さ」「土木工学の知識の有無」「力量感がある」といった変量が高い偏相関係数をとった。つまり、道路を対象とした切手について、土木工学の経験によって

その好みは異なり、タイトルに対し図案が適切である切手や図案に力量感を持った切手は、比較的土木事業を理解してもらうのに貢献しているといえる。さらに、工事中を含めた12項目を分析した結果、道路の場合と同様のことがいえた。そのために、土木の切手には色彩が美しく力量感があり、さらにわかりやすさを重視したものが、国民に土木事業やその技術を理解されやすいものといえよう。一方、第一印象の善し悪し、土木事業に対する理解度にあまり貢献しなかった項目は、「活動的である」「立体的である」などであった。このことは、国民に広く土木事業を理解してもらうためには、今後、土木の切手を発行する際に、これらの要因を考慮する必要があることを示唆しているといえよう。

4. むすび

本報告は、一昨年、昨年と報告した日本編、世界編を比較し、国民が文化、伝統などの相違点を越えて、切手でみた場合の土木史的事業をどのように捉えているかを把握することを目的とした。その結果、切手の対象としては、新聞やテレビなどによってその完成や事業自体をよく知っている鉄道や橋梁などの土木事業に対する認識は、切手を媒体としてもよく理解されていることがわかった。しかしながら、図案に関して「色彩の美しさ」「わかりやすさ」などの要因は国民の切手に対する好感に大きく影響しているものの、「活動性」や「立体的」といった図案の動きや視点といった点で、なお改善すべき箇所が多いように思われる。したがって、土木事業を国民に理解してもらうためには、土木事業、土木技術を評価、宣伝する効果を持ち、かつ、わかりやすい図案をより多く取り入れた切手が必要となろう。そのためには、完成後の図案だけでなく、工事中の図案や、現場で働く人々の姿を描いた図案なども、有効であるといえる。

そこで、土木事業をより国民に理解してもらうために、以下に示すように、わが国で行われる代表的な事業に関連した土木の切手発行のあり方を提言する。

(1) 土木学会の設立は1914年(大正3年)11月24日であるから、2年後の1989年には75周年を迎える。「日本土木学会75周年記念」の発行を郵政省へ要望

表3 数量化Ⅱ類による分析結果(第一印象)

アイテム	レンジ	偏 相 関
1. 土木の知識の有無	0.819	0.349(3)
2. 大きさが適当	0.564	0.212
3. 印刷がよい	0.726	0.340(4)
4. 色彩が美しい	1.535	0.484(1)
5. 抽象的である	0.476	0.216
6. 力量感がある	0.535	0.198
7. 活動的である	0.400	0.155
8. 立体的である	0.661	0.215
9. 観光的である	0.623	0.302(5)
10. 図柄が適切である	1.049	0.355(2)
相 関 比	0.611	

表4 数量化Ⅱ類による分析結果(理解度)

アイテム	レンジ	偏 相 関
1. 土木の知識の有無	0.312	0.083
2. 大きさが適当	0.471	0.122
3. 印刷がよい	0.676	0.161
4. 色彩が美しい	1.124	0.229(5)
5. 抽象的である	2.104	0.286(3)
6. 力量感がある	0.865	0.300(2)
7. 活動的である	0.346	0.079
8. 立体的である	0.469	0.088
9. 観光的である	0.731	0.243(4)
10. 図柄が適切である	1.191	0.348(1)
相 関 比	0.414	

することを提言したい。図案は、わが国が世界へ誇る新・旧の土木事業をベースに学会のマークなどを配したものなどが考えられる。

(2) 今後10年間に於いて、以下の土木事業などの完成に際し、記念切手発行を提言する。

- ・道路 東京湾横断道路
- ・橋梁 本四連絡架橋
- ・鉄道 1.東北、北海道（盛岡・札幌間）などの整備新幹線
2.青函トンネル
- ・空港 関西新空港

これらの切手で用いる図案は、従来の切手ではあまり採用されなかったもの、例えば活動性や立体感を取り入れたものの採用を提言したい。

(3) 古代の土木事業をPRし、あるいはそれらを発掘、保存するための費用の一部をまかなう寄付金付き切手を発行するよう提言したい。

(4) 「土木事業シリーズ切手」と題し、主として江戸時代から明治の初めにかけて作られた土木事業（文化財になっているもの、埋もれているもの、今も使われているもの）を全国にわたって地域バランスをとりながら選定した切手の発行を提言する。また、発行回数および種類は、1回2種類、全10回の合計20種類が適当と思われる。

(5) わが国の土木の切手の発行頻度は、十分であると思われるが、対象・図案という点において、改善の余地は残されているように思われる。つまり、わかりやすさに加え、美的感覚にすぐれたものや観光的な要素を持たせない土木技術そのものを評価するような図案の切手などの発行を要望する。

(6) 分析からも明らかなように、国民に好まれる切手は鉄道、工事中など、どちらかといえばハードな面からのものであった。もちろん、これらを対象とした切手に、活動性や立体性を持たせ、理解しやすくすることも必要であるが、同時に国土開発、都市計画などソフトな面から土木事業を理解してもらうような切手の発行も考慮すべきである。

〔主要参考文献〕

- 1) 「切手でみる土木史；日本編」 加賀谷、清水、木村 日本土木史研究発表論文集 1985
- 2) 「切手でみる土木史；世界編」 加賀谷、清水、木村 日本土木史研究発表論文集 1986
- 3) 「世界大百科事典」 平凡社編集・発行
- 4) 「ブリタニカ国際百科事典」 テービーエスブリタニカ編集・発行
- 5) 「標準世界史年表」 林建太郎他・吉川弘文館
- 6) 「新編西洋史事典」 京大西洋史事典編纂会編 東京創元社
- 7) 「都市計画」 小川博三・共立出版
- 8) 「SCOTT STANDARD POSTAGE STAMP CATALOGUE 1987」 Scott Publishing co.(Ohio)編集・発行
- 9) 「郵趣」Vol.12(1985年)～Vol.41(1987年4月)
(財)日本郵趣協会編集・発行
- 10) 「国別切手図鑑」最新版(8ヶ国)
(財)日本郵趣協会編集・発行